

医学系研究に関する情報公開および研究協力をお願い

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	心外型総肺静脈還流異常症を伴う無脾症候群における術後肺静脈閉塞の検討
研究責任者	聖隷浜松病院 心臓血管外科 曹 宇晨
研究実施体制	当院当科医師による後向き観察研究
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ～ 2026 年 3 月 31 日
対象者	2000 年から 2023 年までの間に、聖隷浜松病院で手術を要した無脾症候群・機能的単心室症のうち、心外型総肺静脈還流異常症を合併し、急性期を乗り越えることができた患者さまを対象としています。
研究の意義・目的	心外型総肺静脈還流異常症を伴う無脾症候群・機能的単心室症に対する手術成績は依然満足できるものではありません。比較的規模の大きい単施設後向き研究が多数行われており、手術時の日齢の浅さ・低体重、緊急手術であること、術前の肺静脈狭窄の存在などが術後肺静脈狭窄の危険因子として報告されています。しかし、症例ごとの詳細な検討はされていないことが多いです。今回我々は、症例ごとに肺静脈狭窄の原因を検討し、多角的な視点から術後肺静脈閉塞の危険因子を検討したいと考えています。
研究の方法	対象患者について、診療録から以下の項目を調査し、統計解析を行います。 年齢、性別、基礎疾患、総肺静脈還流異常症の初回手術日・手術内容、術後肺静脈狭窄の有無、術前後の CT・心臓超音波検査、総肺静脈還流異常症修復術後再介入の内容と時期、最終受診日、転帰。
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧ください。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 心臓血管外科 （氏名）曹 宇晨 TEL:053-474-2222(代表) 心臓血管外科外来 9:00～17:00 平日